



TARIKO コミュニティ・スクール通信

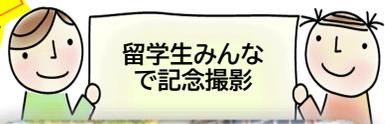
佐賀県立有田工業高等学校 学校運営連絡協議会

令和5年4月28日 第12号

SAGA COLLABORATION SCHOOL 2023

令和4年度よりコミュニティ・スクールを導入した有田工業高校では、『SAGAコラボレーション・スクール(SCS)重点校』の指定校として「地域を愛し 地域に愛される 学校づくり」をめざして、様々な教育活動に取り組んでいます。

topic 01 コラボレーション1 【地域みらい留学】 「留学生歓迎食事会」有田町へようこそin幸楽窯（幸楽会館）



4月7日（金）入学式が無事に終わり、本校の学校運営協議会の委員でもある、徳永陶磁器株式会社・幸楽窯の徳永隆信様の施設内にある「幸楽会館」で留学生歓迎食事会が行われました。

緊張しながら参加した留学生6名に、松尾佳昭町長から「有田町へようこそ！是非、有田の魅力をたくさん感じて発信してください。みなさんを町は全力でサポートします」と歓迎のメッセージを頂きました。留学生たちは、お弁当を食べながら話に花を咲かせることができ、ご多忙の中参加して下さった皆様にも記憶に残る楽しい時間となりました。この歓迎会は、有田町などたくさんの方々のご協力により開催することができました。特に有田ロータリークラブ様には多大なご援助をいただきました。改めてお礼申し上げます。



徳永様の 歓迎挨拶



放送部も撮影します♡



美味しそう

日本料理「保名」・西山様から 豪華なお弁当を作って頂きました

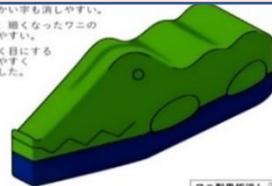
topic 02 コラボレーション2 【地域題材型学習】 デザイン科 「デザインパテントコンテスト」3月13日（月）/サガテレビ（かちかちPress）取材 4月14日（金）



プレゼンター-INPIT理事長と酒井ここねさん

作品数639件(大学(高専)・高校)うち7件が特別賞 受賞作品「新しい生活様式デザイン賞」

- ・口のとがった部分で細かい字も消しやすい。
- ・手が小さな子どもでも、握ったワニの口の部分を握れば持ちやすい。
- ・学校で子どもたちがよく目にする 使うものなので、見せやすく、可愛らしいデザインにした。



ワニ型黒板消し



山崎直子審査員(宇宙飛行士)と記念撮影

文部科学省や特許庁などが主催する「デザインパテントコンテスト」で、デザイン科3年の酒井ここねさんが見事、特別賞7件の中の「新しい生活様式デザイン賞」を受賞し、3月13日（月）に、東京で表彰式が行われました。

取り組んだテーマは「黒板消し」。子供たちが黒板を消すときに、持ちやすく消しやすくして、コロナ禍後の学校生活をより楽しい気持ちで過ごすことができるところが高く評価されました。

今回受賞した「デザインパテントコンテスト」の作品を、サガテレビ「かちかちPress」で取り上げて頂きました。

緊張しながらも、リポーターの石本さんと池内さんのお二人の弾むようなトークで場を盛り上げて頂き、堂々と取材に応じていました。

リポーター石本愛さんとメガモツツの池内祐介さんとの記念写真



リハーサル中

タブレットで実演中

topic 03

コラボレーション3【地域貢献】

「有田陶器市への参画」本校生徒全員対象

令和5年度有田陶器市公式ポスターに酒井こねさんの作品が採用されました

毎年恒例の有工生の陶器市アルバイトですが、今年も有田商工会議所様より多数の求人依頼をいただきました。説明会開催後には、100名以上の生徒から応募がありました。アルバイトを通して、地域とのつながりだけでなく、有田の町を学びのフィールドとしても生徒たちに意識させたいと考えています。慣れないアルバイトでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、地域の皆様には温かく見守っていただきますようお願いいたします。



有田陶器市アルバイト説明会に100名以上の生徒が参加してくれました。

事業所の方が出向いて、アルバイト内容を説明していただいています。



topic 04

コラボレーション4【地域題材・作品創作を通じた地域貢献】

「有田国際陶磁展」ポスターコンクール

今年度のポスターテーマは「躍進」。有田を含めた窯業界全体、有田国際陶磁展の発展を願って、本校の生徒たちは原画を描き、本校生徒は多数入賞することができました。入賞ポスターは文字を入れた時に人目を引くデザイン構成が評価されたとのことでした。

- ・最優秀賞 石橋由奈さん
- ・優秀賞 川本竜一さん
- ・優秀賞 中島瑞樹さん
- ・優秀賞 山口恵美さん

入賞者はすべてデザイン科2年

デザイン科2年 最優秀賞 石橋由菜さん



石橋さんによるポスター解説

今年のポスターテーマ「躍進」から、今年の干支である「うさぎ」がうかび、「夜空高く舞い踊るうさぎ」をコンセプトに、月を大きなお皿で表現し、青海波は世界中で陶磁器が愛され続けますようにと願いをこめ、大きさや形が違う千鳥は個性と繁栄、背景の星は作品や作者が創り出す国際陶磁展という大空をイメージ。全体で統一した青は伝統的な呉須を配色しました。踊るうさぎは更に発展していく陶磁器の世界を表現しました。

topic 05

コラボレーション5【地域題材・作品創作を通じた地域貢献】

「有田国際陶磁展」美術・工芸部門でセラミック科の先生が受賞

119回有田国際陶磁展が開催され、美術工芸品・オブジェ部門に107点の作品が出展され、素材や形への探求心に満ちた創意あふれる作品の中から15点の入賞作品が選ばれました。その入賞作品の中に、本校の先生2名の作品が選ばれました。全日制の澤山先生は第一席の文部科学大臣賞を、定時制の赤塚先生は第四席の有田商工会議所会頭賞を受賞されました。

作陶の指導をされている澤山先生



澤山大亮先生の作品 文部科学大臣賞「天目線文彫」

澤山先生による受賞作品解説

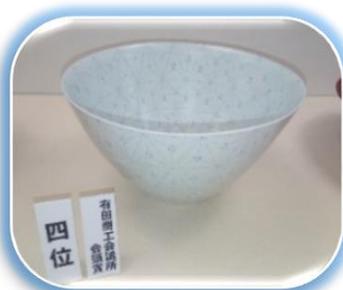
優美な形と力強い天目の調和を目指し、作陶を続けています。また天目に彫りを施すことで動きを与え、線文のラインで全体をまとめています。

赤塚幸恵先生の作品

有田商工会議所会頭賞「白磁釉内彩鉢」

赤塚先生による受賞作品解説

白磁の鉢に点描の模様を手書きで描いた作品です。器形は自然の造形物のもつ、美しいラインに近づけるように作成し、点描は器形を引き立てるように青のグラデーションと銀を用いて規則正しく配置しました。



作陶の指導をされている赤塚先生

